

- 1 派遣期日 平成 29 年 10 月 18 日（水）
- 2 研修先 学校名（会場名）東京都新宿区立東戸山小学校
所在地 東京都新宿区戸山 2-34-2
<http://www.shinjuku.ed.jp/es-higashitoyama/index.html>

3 研修内容

（1）視察校における研究への取り組み

研究テーマ：「自他を大切にして、共に生きる力を育てる学級活動」
～子どもの活動意欲を高める指導の工夫～

① 目指す児童像

友達のよさを認め、自分たちの目標に向かって協力し実践する児童

② 研究仮説

学級の支持的風土を培い、友達と協力して創り上げる活動を工夫し、一人一人の充足感と目標達成意欲を高めることで、目指す児童像に迫ることができる。

③ 仮説を検証するための視点

【視点 1 学級の支持的風土を培う】

自分たちの目標に向かって協力し実践する児童には、自分の考えを活発に発言したり、友達の考えを落ち着いて聞いたりする姿が見られる。その背景には、友達の思いを受け止めようとする気持ちや自分の思いを受け止めてもらえるという安心感が存在している。そこで、学級の支持的風土（互いに認め合い心のよりどころになる雰囲気）を培うことが必要であると考えた。

【視点 2 友達と協力して創り上げる】

自分たちの目標に向かって協力し実践する児童には、学級目標や提案理由に沿った言動や見通しをもって活動する姿が見られる。その背景には、課題と目標を学級全体で共有しようとする気持ちや、いま何をするべきかを判断できる力が存在している。

そこで、提案理由を話し合い活動の中で常に意識させたり、話し合い後や活動終了後において、適切に振り返りをさせたりすることが必要であると考えた。

【視点 3 一人一人の充足感を高める】

自分たちの目標に向かって協力し実践する児童には、学級への愛着を表す言動や活動に前向きに取り組もうとする姿が見られる。その背景には、学級の中で自分の役割をやり遂げたい思いや学級をもっとよくしたいという気持ちが存在している。

そこで、支持的風土を培い、集団の一員としての自覚をもたせ、一連の活動に満ち足りることで次の意欲を喚起すること、すなわち、充足感を高めることが必要であると考えた。

（2）授業公開 学級活動

第 1 学年 1 組（児童数 20 名）5 校時（13：40～15：25）

○議題「若草学級のみんなと「なかよしの会」をしよう」

（学級活動の内容（1）ーア 学級や学校における生活上の諸問題の解決）

○提案理由

i) 木曜日の若草タイムのときに、自分たちで考えた遊びをしたいから。

ii) 若草学級のみんなともっとなかよくなりたいから。

○児童の実態

明るく元気で素直な児童が多く、積極的に手を挙げ発表することを楽しみ、友達の話を聞こうとする態度が少しずつ備わってきている。また、今までに 8 回の学級会を行っており、みんなで学級生活を楽しくすることの大切さやクラスの所属意識が高まってきている。しかし、時には友達の意見を受け入れることができないことや、批判的な言葉が聞かれることがある。学級担任は、自分自身の考えを伝えることや、友達の意見を認めることで、普段の学校生活でもお互いを認め合うことができるようになってほしいという願いをもっている。

○議題について・ねらい

楽しませたい相手を設定することで、「相手を喜ばせると、自分も楽しい。」という意見が出てくることを期待している。また、誰かを楽しませるためには、どんな工夫ができるかなどを考えさせながら、学級内の人間関係を深めるとともに、自他を大切に、共に生きる力を高めていきたいというのがねらいである。

○話し合いについて

座席を円形にして近い距離で話し合える場の工夫を行っていた。どのような遊びかが分からない児童がいた際には、教師が適宜助言をし、実際に前に出て動きを見せながら説明させるようにしていた。

(3) 研究協議

- 賛成意見と心配意見を出させていたが、心配意見を出させてしまうと反論できず、良くない意見として捉えてしまう恐れがあるので「心配なこと」という言葉は使わせない方がよいのではないか。→「心配意見」として出させるのではなく、「質問」という言葉を使用する方がよい。
- 話し合ったことをまとめるときの反対意見は無視してしまってもよいのか。→その子の特性上、教師が個別に声を掛けて納得させるようにする。
- たくさん意見が出るのは良いのだが、まとまらなくなってしまうのではないかと。(今回は上手にまとめることができたが)→1年生の話し合いとしてとてもレベルが高かった。話し合うことが「①若草タイムで何の遊びをするかを決める。②若草タイムの時の役割を決める。」の2つだったので、1つに絞って話し合いを行うと良い。
- 決定の仕方は多数決ではないのはなぜか。→賛成意見の出た数と心配意見が出た数を見てどれが一番良いか考えて決定させているので、結局は多数決で決めていることになる。

(4) 指導・講評

(講師 埼玉工業大学人間社会学部・工学部講師

元東京都小学校特別活動研究会 会長 藤縄 清 先生)

- ・話し合い活動において建設的な意見・適切な助言が必要であり、今回の話し合いはその点においても非常に高いレベルであった。
- ・問題点を明らかにしており、実践の構想をもって一生懸命説明してその遊びのよさを伝えていた。
- ・良かったことは、児童が「若草学級みんなともとなかよくなりたいたから。」という提案理由をよくわかって発言していたこと。また、「若草学級の〇〇さんは…が好きだから」というように具体的に顔を思い浮かべて一緒に遊ぶには何が良いかを考えて発言する児童がいたことがとても良かった。
- ・写真を活用すると、しっかりとした根拠ある説明ができる。

4 感想

教室に入ってすぐに、子ども達の明るい歌声が響きわたっていて、学級のあたたかさや雰囲気を感じ取ることができた。一人一人がのびのびと発言していて、その発言に対して児童がお互いに拍手をしたり頷いたりする姿がとても良いと感じた。また、それぞれの意見の下に貼れるにっこり笑顔のマークと困った顔のマークや司会の机の上に置いてあった今何をする時間かを示すカード(比べる・意見を出すなど)、児童の実態に合ったワークシートなど教具にたくさんの工夫がされていた。

まとめが終わった後の先生の話では、どんな発言が良かったか、次頑張ってもらいたいことは何かを1年生にわかる言い方で具体的に伝えており、次はここを頑張りたいと思える声掛けの仕方がとても素晴らしかった。

段階を踏んだ指導を積み重ね、協力して創り上げることの大切さを伝えることのできる話し合いの授業を目指し、今後も研鑽を積んでいきたい。